

## 第4回阿賀野市宝珠温泉保養センターあかまつ荘の在り方検討会「会議録」

日 時：令和4年11月24日(木)13:00～16:45（施設視察14:30～15:40）

場 所：阿賀町七福温泉七福荘（阿賀町七名乙930）

出席者：宍戸邦久、菊地修市、星野智生、八木正男、酒井泰子、市村光子  
（11名中6名出席）

事務局：（商工観光課）大橋課長、丸山課長補佐、田村観光係長

### 1 開会

### 2 議題

（1）阿賀町七福温泉七福荘（阿賀町七名乙930）の視察  
NPO法人七福の恵より①から⑥までの内容についての説明を受けた。

①NPO法人設立までの経緯

②施設の運営体制

③地域住民との関係性

④利用者増加に向けた取り組み

⑤収益事業（食堂や売店など）の取り組み

⑥施設運営に関する今後の目標や課題

（意見等）

○副委員長

指定管理料は事業費の何割か。

○NPO法人

指定管理料が事業費の4割程度を占めている。6割は自分たちで努力し捻出している。ここの温泉は行き止まりの場所にあり、利用者はここの温泉を利用する目的で来られる。リピーターとなってもらえるよう一人一人と重厚に接するよう心がけている。

○委員長

利用者は約16,000人で、そのうち町外が12,000人ですね。

○NPO法人

そのとおりです。

○委員長

NPO 法人を令和 2 年 10 月に設立しているが、どのように準備を行ってきたのか。

○NPO 法人

令和 2 年 6 月ごろから行政とともに設立に向けた準備を開始した。

○副委員長

賛助会員はいるのか。また、企業などからの協賛金収入はあるのか。

○NPO 法人

10 名の会員がいるのみ。賛助会員はいない。初年度の年会費は 7,000 円。2 年目以降は 2,000 円。協賛金収入はない。

○委員

地域の方に喜ばれている便利屋活動も行っているとのことであるが、活動者は登録を行っているのか。

○NPO 法人

まだ活動が定着していない。食材の配達などを行っているが、件数は少ない。行政から補助金を得てデマンドバス運行業務も行っている。運行ルートと時間帯が決まっており、前日までの予約が原則となっている。

○委員

デマンドバスを運行するにあたり、何か許可が必要なのか。

○NPO 法人

運輸局の認定が必要。また、運転手も講習を受ける必要がある。

○委員

温泉施設の運営のみならず、地域支援活動も行っていることはとても良いことだと思う。

○委員

地域支援活動において、どのように人材を確保しているのか。

○NPO 法人

例えば除雪の依頼があった場合は、我々関係者のみで対応を行うことにしている。地域の方からの相談も温泉施設に寄せられるが、行政や地域関係者との連絡体制が構築されており、スムーズな支援を心がけている。単なる温泉施設ではなく、地区の拠点施設となっている。小学校があったころは小学校が地区の拠点施設としての役割を果たしてきたが、廃校となってからは、この温泉施設に地域住民が集い、文化祭や

まつりなどの催しを行っている。

○委員長

地域活性化の拠点となっているのですね。

○NPO 法人

地域住民の見守りなど、福祉機能も有している。また、NPO 法人の 5 名の全理事が同じ思いで活動を行っており、活動を行いやすい。やはり一緒に活動するメンバーは大切だと感じている。また、行政とも同じ思いで活動し、信頼関係を構築していくことが重要と考えている。

○副委員長

今後の目標をお聞きしたい。

○NPO 法人

少子高齢化、人口減少が進む中、どのように交流人口を増やしていくのかが地域としての課題である。温泉を含めて、地区の地域資源を最大限に活用し、交流人口の増加に向けた取り組みを行っていきたい。人が少なくなると地域の元気も失われてしまう。地域が元気になるように人が集う取り組みを行っていくことが重要と考えている。

○委員

地区の人口を教えてください。

○NPO 法人

空き家も増えているが、60 世帯、120 名程度である。平均年齢は 70 歳に近い。若者はみんな町外へ行き、高齢者世帯のみとなっており、ここの温泉施設が地域の拠り所となっている。

○委員

初めてここの温泉施設を訪れた。お話を聞いて、地域が衰退しないよう、地域のみなが一致団結して取り組みを行っていることは非常に素晴らしいことと感じた。ただ、施設運営は営業でもあり、年間を通して利用者を確保し、収益を生み出すことは非常に難しい面もあると思われる。

○NPO 法人

営業している限り、どうしても収益を上げる取り組みが求められる。収益が施設運営のあらゆるところに影響してくるものと認識している。収益を上げる努力が必要。

3 閉 会